

一人一人のよさを認め合える人間関係を育てる学級経営

ー班活動を中心にした学級行事「お誕生会」への取り組みを通してー

東風平町立東風平小学校教諭 金城 博 美

内容要約

一人一人のよさを認め合える人間関係を育てるために、構成的グループエンカウターの実践や班活動の指導計画を作成し、指導の工夫を試みた。

自分を表現でき友だち関係を深められるようなエクササイズと、班を中心にした学級行事「お誕生会」への取り組みと合わせて学習することにより、よさを認めあえる人間関係づくりをめざした。

活動を通してお互いのよさを認め合う場が増え児童の相互理解が深まり、班で協力し合う雰囲気が出てきた。

【キーワード】人間関係 児童理解 構成的グループエンカウター 班活動 学級行事

目 次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究仮説	41
III	研究内容	42
1	学級経営の意義	42
2	よさを認め合える人間関係づくり	42
3	学級行事「お誕生会」	43
4	児童理解の方法	43
IV	授業実践	44
1	題材名	44
2	題材設定の理由	44
3	指導の工夫	45
4	指導計画	46
5	本時の指導計画	47
6	授業の考察	48
V	研究全体の考察	48
1	児童の相互理解の深まり	48
2	班活動を中心にした学級行事への取り組み	50
VI	研究の成果と今後の課題	
1	成果	50
2	今後の課題	50

一人一人のよさを認め合える人間関係を育てる学級経営

一班活動を中心にした学級行事「お誕生会」への取り組みを通して―

東風平町立東風平小学校教諭 金城 博 美

I テーマ設定の理由

学級経営においては「教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深めること（小学校学習指導要領解説より抜粋）」が求められている。児童の学校での生活基盤は学級である。その学級集団の中で、児童は、多くの友達とつきあいお互いの関わりを通して相手を理解し、自分の存在感を確かめながら成長していく。学級が毎日を明るく楽しく生活できる場であれば、児童は希望と意欲をもって生活にも学習にも取り組むことができる。

しかし最近、少子化、核家族化、地域の人間関係の希薄さなどの社会環境の変化から様々な問題を抱えている児童が増えつつある。これまでの自分の実践を振り返ってみると、学級の中で班をつくり、班活動を通して学級づくりをしてきたが、人との関わり方がわからずにトラブルを起こす児童、一人遊びをする児童、仲のよい友達とだけ活動しようとする児童などがみられた。担任として褒めたり励ましたりしてきたが、班で活動する楽しさや大切さを実感させることができず、班の中で協力し合える人間関係をつくることが十分にはできなかった。その原因として、児童によりよい人間関係を築くための素地が十分に育ってなかったこと、教師にとっては、人間関係づくりを意図した班活動への取り組みの指導の弱さがあったことなどが挙げられる。

児童は本来様々な良さや可能性を内に秘めてよりよく生きたい、向上したい、友達と仲良く活動したいという欲求を持っている。その欲求を実現するためには、お互いの良さを認め合い、協力し、信頼しあえる学級集団をつくることが大切であると考えた。

よりよい人間関係づくりの手だてとして、ゲーム的、活動的な要素を多く含む構成的グループエンカウンターを実践していくことが適切であると考えた。体験や感情の共有を楽しみながら友達同士触れ合うことができるエンカウンターを通して、児童の相互理解を図っていききたい。

さらに、仲間と触れ合う場面が多い班での活動の指導計画を作成し、班活動が楽しいと実感できるような指導の工夫をしていきたい。そのためには、班での活動をより多く経験させ児童が自分の思いや考えを気軽に表現できる雰囲気をつくることも重要である。

本研究では、特に班活動を中心にして学級行事「お誕生会」に取り組んでいきたい。「お誕生会」に班で取り組み協力し合ってやり遂げることで、達成感・連帯感・責任感を味わうとともによさを認め合う場が増え、その成果は、学級集団に生かされると考えた。

そこで、構成的グループエンカウンターを通して人間関係づくりのためのスキルを高め、さらに班活動を中心にした学級行事「お誕生会」への取り組みをし自己理解、他者理解を深めさせたい。児童一人一人がお互いのよさを認め合いながら班活動をすることで、豊かな人間関係づくりができると考え本テーマを設定した。

II 研究仮説

- 1 構成的グループエンカウンターの実践により児童の相互理解が深まり、助け合い、協力し合う班活動ができるであろう。
- 2 班活動を中心にした学級行事「お誕生会」への取り組みを通して、一人一人のよさを認め合える場が増え、豊かな人間関係が育つであろう。

Ⅲ 研究内容

1 学級経営の意義

(1) 学級経営とは

学級経営とは、学級の教育目標の実現を目指して、総合的で意図的な計画を立案し、その効果的な運営と展開を図ることである。また、学習集団、生活集団の場として豊かな人間性を育てていくことが大切である。

(2) よさを認め合える学級経営

学級が居心地がよくのびのびと生活できる場であれば、児童は学習にも生活にも意欲的に取り組むことができる。相手の身になって考えたり、相手のよさを見つけようと努めたり、お互いに協力し合う支持的風土のある学級のなかで、児童相互の好ましい人間関係を育てることができる。そのために教師は、的確な児童理解のもとに児童の長所を見つけよさに気づかせ自信をもたせることが大切である。教師と児童の信頼関係をつくることで児童の心の安定感を生み、自分自身の可能性を高めていこうとする意欲につながる。また、一人一人のよさを認め合ったとき、他人への寛容も生まれてくる。児童同士に共感や支援の姿勢をもたせ相互に信頼し合える関係をつくることが、学級経営において重要である。

2 よさを認め合える人間関係づくり

(1) 班活動の意義

ここで述べる班とは生活班のことである。学級の中の小集団である班をつくって活動することは、児童が人と関わり共に成長していく基盤となる。そこで目的や意味を考えて班を手がかりにし、班の中でお互いの関係を意識させていくことができる。

毎月の班替えを経験する中で児童は多くの友だちと関わるができる。その中で、時にはお互いの意見や考えの違いが出て対立したりするが、それらの事を一つ一つ話し合い解決していく中で活動するときの力強さ、連帯する時の喜び、苦勞して成就したときの達成感などを体験することができる。そのためには教師は、よりよい解決策を見つけ出すまで根気強く指導・援助を重ねていくことも大切である。そのことが次の班活動への意欲へとつながっていく。班活動を通して児童一人一人や学級集団も成長する事ができる。

(2) おたがいのよさを認め合う班活動とは

児童は、様々なよさや可能性を秘めている。それを教師や友だちに認めてもらうことで、存在感を味わい、自信を持ち、友だちのことにも目を向けるようになる。心の充実感・安心感が、お互いのよさを認め合う人間関係をつくることになる。

班という小集団の中で、共に学ぶ喜びや共に活動する喜びを体得することが、お互いのよさを認め合う学級集団の育成につながっていく。よさを認め合ったときに相手を受容し、協力して班活動もできるようになる。そのためには教師は、活動の経過や班及び児童の行動を評価し、賞賛する事も大切である。活動がうまくいかないときには、なぜうまくいかないのか要因を把握し助言や励ましなどを繰り返し共に解決していくことが重要である。班で活動することを通して友だちとの関わりが増え、お互いのよさを認め合うことができる。

(3) 構成的グループエンカウンターについて

児童が自分や友だちのよさに気づくためには、多くの友だちとふれあい、多くの友だちのよさにふれる経験をする事である。その一つの方法として構成的グループエンカウンターがある。

構成的グループエンカウンターは、児童相互や教師と児童のふれあいを深める集団学習体験である。ゲーム的・活動的な要素を多く含む構成的グループエンカウンターを実践することで、楽しい雰囲気の中で児童の相互理解を深め、自己の成長や好ましい人間関係を築く力をのばしていくことができる。

新しく班を編成した後にエンカウンターを実施することで不安を取り除き、班が安心できる場とな

りお互いのよさを認め合える人間関係をつくることができる。そのためには、教師の考えるねらいを達成させるためのエクササイズを選び、エクササイズ実施後は、シェアリングをして児童の気づいたこと、考えたことをわかちあうことが大切である。

3 学級行事「お誕生会」

(1) 学級行事について

遊びや楽しい取り組みは児童が最も要求していることである。楽しい活動をより多く体験させることを通して、協力することの大切さや共にやり遂げる喜びを味わわせ、人間関係を育てることができる。学級行事は、学級集団発展のために取り組まれるものである。学級行事に班で取り組むことで班活動が充実し児童一人一人と学級集団の力も高まっていく。年間を通していろいろな学級行事を学級集団の思いや願いに応じて児童とともに取り組んでいくことは集団づくりにおいて大切である。そこで学級で取り組んでみたい学級行事として表1のような計画を立てた。

表1 取り組んでみたい学級行事

一学期の学級行事	二学期の学級行事	三学期の学級行事
・はじめまして学級びらき ・みんな大好きお誕生会 ・声をそろえて音読会 ・チームワークドッジボール大会 ・頑張ったね一学期じまいの会	・二学期も頑張ろう会 ・みんな大好きお誕生会 ・歌声チャンピオン大会 ・力をあわせて壁新聞づくり ・楽しかったね二学期じまいの会	・心をひとつに三学期びらき ・みんな大好きお誕生会 ・なかよし文集づくり ・楽しい豆まき会 ・思い出いっぱい学級じまいの会

(2) 「お誕生会」について

学級行事には、いろいろなものが考えられるが、本研究では「お誕生会」に取り組んでいった。その理由として①一年間を通して取り組むことができる。②児童一人一人が自分の誕生月には、主役とすることができる。③一人一人の誕生を祝うことでお互いの大切さや命の尊さがわかる。④班を中心にして「お誕生会」の係をやりきることでお互いのよさを認め合う場ができること等が挙げられる。

「お誕生会」を通してよさを認め合う場が増え活動の喜びや楽しさを味わい次の活動の意欲へとつながることができる。

4 児童理解の方法

学級経営においては教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係づくりが求められている。そのために、教師は、一人一人の児童への理解を深めるように常に努力しなければならない。児童一人一人を理解し、よりよい人間関係をつくっていく姿勢をもつ事が大切である。

本研究では、主として下記のような手だてを考えて児童理解を図ることにした。

(1) Q-Uの実施

楽しい学校生活をおくるためのアンケートQ-U『学級満足度、学校生活意欲調査(図書文化)』は、教師の日常観察や面接法による児童理解の限界を補い、児童個々の状態および学級の状態を理解するための客観的で多面的な資料を提供することをめざした診断尺度である。Q-Uを実施しその結果に基づいて、構成的グループエンカウンターを取り入れたり、生活班を編成したりして児童の人間関係づくりをし、学級経営に生かすことができる。

学級満足度尺度では、児童の学級生活での満足感や充実感を次の4つのタイプで把握できる(表2)。

表2 学級満足度尺度のタイプ

学級生活満足群	学級内に居場所があり、学校生活を意欲的に送っている児童
学級生活不満足群	耐えられないいじめや悪ふざけを受けているか、非常に不安傾向が強い児童
非承認群	いじめや悪ふざけを受けてはいないが、学級内で認められることが少ない児童
侵害行為認知群	いじめや悪ふざけを受けているか、他の児童とトラブルがある可能性が高い児童

(2) アンケート

友だちについてのアンケートを実施して友だち関係を把握し、孤立児や周辺児を支援したり、班編成の時の資料にしたりする。

(3) 行動観察

授業中、休み時間、放課後などの学校生活の中で、児童の行動や様子を観察したり把握したりして適切な対応をする。

(4) 日記

児童の日頃の言動・思い・友だち関係を知り、理解を深めながら共感や励ましの言葉を入れ、信頼しあえるように心の交流を図る。日記を通して見つけたよさは、その都度学級の人々に紹介する。

(5) 班ノート

友達のよさ、自分のよさに気づかせるために班ノートを作成し活用する。できるだけ毎日読み教師の感想を書き添える。問題があれば早めに対処し班で解決できるように援助する。

(6) 帰りの会

一日を振り返り、班の友達のよさ、クラスの友達のよさなど、見つけたこと思ったことを帰りの会で発表し合い、賞賛の場とする。

IV 授業実践

1 題材名 「お誕生会をしよう」

2 題材設定の理由

(1) 教材観（省略）

(2) 児童観

本学級の男子は、明るく元気があり休み時間は、校庭に出て活発に遊んでいる。女子はおとなしいが当番活動や係活動など決められたことはきちんとすることができる。男女の仲は悪くはないが休み時間に一緒に遊ぶ姿は、あまり見られない。

また、Q-Uの結果から「児童間のトラブルは少ないものの、学級全体で協力して一つのことをやり遂げようとする意欲が弱い傾向にある。また学級内で孤立化し友人からのサポートが得られないと感じている児童やクラスの人々から認められていないと感じている児童がいる。」ことがわかった。

さらに5月の班についてのアンケートから班で活動することは楽しいと80%の児童が答えているが楽しさの内容が「わらわせてくれるから」とか「おしゃべりできるから」といった物が多く「みんなで活動する楽しさ、協力してできた楽しさ」を書いている児童は、30%であった。以上のことからエンカウンターや班活動を通して児童同士の関わりを深め、お互いのよさを認め合える態度を育てたい。

(3) 指導観

学級経営を行う上では、学級の児童一人一人の実態を把握し児童理解をすることが大切である。その手だてとしてQ-Uや友だちに関するアンケートを実施し児童理解を図った。その上で班が児童にとって安心できるように児童の願いを考慮した班編成をした。

また人間関係づくりの手だてとしては、班ノートの活用や、朝の会や帰りの会や学級活動の時間を使って構成的グループエンカウンターを実践し、児童の相互理解に努めた。エンカウンターを実践することで感情の交流を行い自分の考えや気持ちを話せる雰囲気を作るようにした。

さらに班で取り組む学級行事「お誕生会」を計画し、お互いのよさを認め合いながら班で活動できるように指導していきたい。

本題材「お誕生会をしよう」では、誕生会へ向けて班で話し合い、なりたい係に立候補させる。その係の仕事を進めていくためには、班員一人一人の意志疎通のための対話や協力が必要になってくる。このような活動を通して、友だちのよさや班活動のよさに気づかせるようにしたい。

本時では、導入において共感的な態度で話し合いに参加できるようなショートエクササイズを体験させ、班で気持ちをあわせたり話し合ったりすることができるようにしたい。

さらに「お誕生会」への取り組みを通して、祝福される友だちの気持ちに気づいたり、祝福する気持ちを持ったりすることで、協力し助け合う豊かな人間関係を育てたい。

4 指導計画

☆ゴシックは、エクササイズ

月日	活動形態	ねらい・活動内容・エクササイズ	教師の支援	評価
5/27 五校時 放課後	学級活動 班活動 班長会	班編成と班長選出 「質問ジャンケン」 新しい友だちの名前や考えを知り新集団の構成メンバーを肯定的に認めあえる雰囲気作りをする。 班長同士の紹介と班長の役割について確認する。	班の席や班長は話し合いで決めるように指示する。 班での話し合いのときは、班員一人一人の話を聞くように助言する。	班で相談することができたか。 班長同士の交流がもてたか。
5/28 三校時	国語① 一斉	「わたしと小鳥とすずと」の詩を音読しあう。詩を音読しあい最後の一行について話し合う。「みんなちがってみんないい」	それぞれのよさに気づかせる。	友だちのよさに目をむけられたか。
5/30 三校時	学級活動 一斉	「〇×ゲーム」をする。 自分に関することを問題にし、友だちに答えてもらう喜びを味わう。	問題を出せず迷っている児童には自己紹介カードを見て問題を出していいと助言する。	どの児童も問題をだせたか。(ふりかえりカード)
5/31 帰りの会	班	友だちのよいところをカードに書こう。 一週間を振り返り友だちのいいところを見つけてカードに書く。	一週間のいろいろな活動の場を振り返えらせる。	友だちのよさに目をむけることができたか。
6/4 五校時 帰りの会	学級活動 班 班活動	班で「ご指名です」をする。 楽しい仲間の中で不安な自分が班の中で協力し合い、友だちとのよりよい人間関係を築く。 班ノートの書き方について確認する。書く順番を相談する。	間違えたりいえなくなってしまう児童への対応が冷たいものにならないように、声かけをする。 ノートの書き方の説明やルールを理解させる。	友だちと協力してゲームができたか。(ふりかえりカード) ノートの書き方がわかったか。
6/6 朝の会 放課後	班 班長会	ショートエクササイズ「ジャンケン手の甲たたき」 自己防衛機制を解除し人間関係がスムーズにできるようにする。 教師原案の「お誕生会をしよう」を提示し話し合う。学級会で話し合う内容について確認する。	子どもの数が奇数の場合は、教師が入ってペアをつくる。 わからないところは、質問させる。班の人にどんな係があるか伝えておくように指示する。	友だちと楽しくジャンケンができたか。 原案の内容がわかったか。
6/7 五校時	図工① 班活動	むごんチームワークゲーム 一人一人が自分の役割を遂行し、協力して一枚の絵を完成させる。言葉を使わずに相手の気持ちを察するようにする。	ルールを守り班の人みんなが最後までがんばるように励ます。	協力し合って絵が描けたか。
6/11 三校時	学級活動 班活動	お誕生会の計画をたてよう。 お誕生会をいつやるか、どんなことをやるか、どんな係が必要か話し合う。	提案した議題をわかりやすく説明する。	自分の意見がいえたか。友だちの考えが聞けたか。
6/12 五校時 放課後	図工② 班活動	ご指名です。 むごんチームワークゲーム お誕生会でやりたい係について班で話し合う。	どの係に立候補したいのか班の中で話し合い決める。話し合いの進め方を知らせる。 「話のすすめ方」カードをもとに話し合うようにさせる。	協力して準備ができたか。
6/14 帰りの会	班	あわせアドジャン 班の人みんなが同じ数をだすために気持ちを合わせたり、話し合ったりする活動を通じて、自己理解、他者理解を促進し、班の凝集性を高める。班の一週間の活動の反省をする。	合わない班への配慮をする。 時間があれば、いくつかの班の作戦を発表させて全員で作戦を共有させる。	気持ちを合わせてジャンケンすることができたか。
6/20 五校時～ 放課後	学級活動 班活動	係の立候補の準備をする。	一人一人が準備にかかわるように励ます。いろいろな発表の仕方を紹介し工夫させる。	班で協力し、助け合って準備ができたか。
6/24 放課後	班活動	学級会についての準備をする。	それぞれの役割分担を確認させる。	協力し合って進めているか。
6/25 三校時 本時	学級活動	『お誕生会の係に立候補しよう。』 お誕生会の係に班で協力し合い立候補する。	それぞれの班の様子を把握し助言する。	班や班員のよさを伝えることができたか。
6/26・27 放課後	班活動	お誕生会の準備班で協力し合ってお誕生会の準備をする。	協力し合うことが大切だということに気づかせる。	一人一人が役割を持って活動したか。
7/1 五校時	学級活動	『お誕生会』 それぞれの班が協力し合ってお誕生会に参加し会を進める。学級行事での活動の反省を振り返りカードに書く。	各係の活動でつまづいた時援助する。班での活動を評価し次の活動への意欲づけをする。 お誕生会を通して頑張ったことや友達とのよさや自分の班のよさを書くように助言する。	協力し合い楽しくお誕生会ができたか。 友だちのよさをみつけることができたか。 お誕生会に協力して楽しく取り組めたか。

5 本時の指導計画

(1) 題材名 『お誕生会の係に立候補しよう』

(2) 本時の指導目標

- ・班で話し合って決めた係への立候補が協力し合ってできるようにする。
- ・班での話し合いのとき友達の意見を聞き、自分の考えを話すことができる。
- ・友だちのよさを発見し、認め合う、共感しあう気持ちを持つことができる。

(3) 授業仮説

- ① 導入においてショートエクササイズを体験することで共感的態度で話し合い活動に参加することができるであろう。
- ② お誕生会に向けて協力し合いながら、班で係に立候補したり話し合ったりすることで、お互いの考えやよさがわかり豊かな人間関係が育つであろう。

(4) 展開

過程	児童の活動	教師の支援	評価の観点
シ エ ョ ク ー サ ト サ イ ズ 10分	ショートエクササイズ 「あわせアドジャン」	めあてやルールを確認させる。 (めあてやルールを書いたカードを黒板に貼る。) なかなかあわない班には、ゆっくりと次に出す数字を確かめるようにさせる	班で気持ちをあわせて参加することができたか。
め あ て の 確 認 5分	1 お誕生会についての確認 2 今日、話し合うことの確認 3 めあての確認。 ・班で協力し合って立候補しよう。 ・友だちのいいところを見つけよう。 4 班での話し合い。	めあてを書いたカードを黒板に貼る。 立候補する係の確認をさせる。 それぞれの班がアピールする準備ができているか把握する。それぞれの役割分担を確認させる。	話し合いのめあてがわかっているか。
班 立 候 補 15分	5 それぞれの係に立候補する。 ・司会・プレゼント係・歌声係 ・プログラム係・ゲーム係 ・お誕生日の人の紹介をする係・始めと終わりの言葉の係 6 それぞれの班のアピールを聞く。	それぞれの班を励ます。 各班のいいところや工夫しているところを見つけるように助言する。 立候補した係を、みんなの拍手で認める。	班で協力し合って立候補することができたか。 班や班員のよさを伝えることができたか。 それぞれの班のアピールを最後まで聞くことができたか。
話 し 合 い 10分	7 班で感想を話し合う。 「見つけたよ。」カードに書く。カードをもとにして班で話し合う。	全員一言は話すようにさせる。 話し合いが進まない班に入り助言する。	自分の考えを話せたか。
発 表 す る 10分	8 それぞれの班のよかった所を発表する。 9 誕生日を祝ってもらう人に感想を話してもらう。	話し合いのなかで友だちや班のよいところを見つけ、発表させ賞賛の場とする。 祝福される側の気持ちに気づかせる。	他の班のよさを見つけることができたか。
ま と め 10分	10 先生の話。 11 振り返りカードを書き、発表する。	各班の頑張りを誉め、次の活動への意欲づけをする。	お互いのよさを見つけることができたか。 協力して参加することができたか。

6 授業の考察

(1) 仮説①の検証

本時の児童の振り返りを図1にまとめてみた。ショートエクササイズでは「班の人と気持ちを合わせることができたか」では約80%の児童ができたと答えておりエクササイズに楽しく取り組んでいた。エクササイズを体験することで共感的態度で話し合いに参加できたことがわかる。

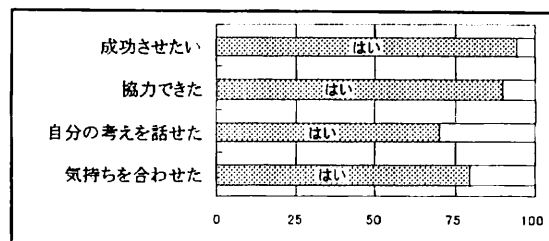


図1 本時の振り返り

(2) 仮説②の検証

班の人と協力して立候補ができたと言った約90%の児童が答えている。どの班も協力し合って一生懸命立候補をしていた。また前回の話し合い振り返りでは、「自分の考えを話せたか」では、約60%であったが本時では約70%となった。またどの班も立候補していない係に3つの班が立候補してやる気を見せていたことやお誕生会を成功させたいと思っている児童が約94%いることから、班活動に意欲的に取り組もうとしている姿勢ができてきていることがわかった。資料3よき見つけカードにも全員がよきを見つけて書くことができた。

いいとこ見つけたよ

自分のはんの よいところ
声が そろ、ていました。

(1) はんさんのよいところ
はんのメダルについていた、リボンが
かわいかったです。

(2) はんさんのよいところ
あかじょうすいさんと 系会がじょう
ずはんがいてからかきやあかたろうが

(3) はんさんのよいところ
みんな1人ずつ わかりやすく
きき やすかったです。

資料3 よき見つけカード

(3) 個の変容 Bさん

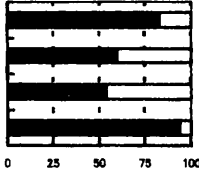
自分の考えを伝えることが苦手の様子であったが、本時の学習の振り返りカードでは、「自分の考えを話すことができた」「お誕生会を成功させたい」と感想を書いており、お誕生会への意欲を見せていた。また、5月のアンケートでは、「班活動は楽しいですか」という問いに「どちらでもない」と答えていたがお誕生会やエクササイズを体験したあとの振り返りカードでは、「班活動はとても楽しい」と答え、「班の人ともっといろいろな活動をしたい」とやる気を見せていた。

V 研究全体の考察

1 児童の相互理解の深まり

(1) 構成的グループエンカウンターの実践から

	ねらい	内容	児童の感想
○か×かな？	自分に関することを問題にし、友だちに答えてもらう喜びを味わう。	自己紹介カードをもとに自分に関する○×クイズを作る。全員が順番に前に出て問題を出す。他の人は、答えを予想して、○か×のスペースに移動する。出題者は正解を伝え、それについて説明する。	みんなのことがわかった 自分の事を知ってもらえた 楽しかった
	【考察】 82%の児童が自分のことを知ってもらえたと振り返っている。自分に関する問題を自己紹介カードをもとにして選んだ児童も問題を出すことができた。		
こ指名です	楽しい仲間の中で不安な自分が班の中で協力し合い、友だちとのよりよい人間関係を築く。	班でそれぞれに1から番号を割り当てる。4拍子のリズムで、ナンバーコールをする。自分の番号をコールされた人だけが3拍めで自分の番号、4拍めで他の人の番号を言う。これを4拍子のリズムに乗って調子よく繰り返す。番号のコールを忘れたり、間違えたりするとアウトになる。	協力できた 調子よくできた 楽しかった

	【考察】 協力してエクササイズができた児童は 72%であったがリズムに乗って調子よくできたかの項目が、61%と低いのはゲームの仕方の説明やルールの確認が不十分であったことが考えられる。エクササイズの内容やルールの説明の仕方の工夫やうまくいかない班への適切な支援が必要であることがわかった。この反省をもとに後日もう一回同じエクササイズを実施した。ルールややり方がわかりリズムにのってゲームを楽しむ姿が見られた。		
む ご ん チ ー ム ワ ー ク ゲ ー ム	一人一人が自分の役割を遂行し、協力して一枚の絵を完成させる。言葉を使わずに相手の気持ちを察するようにする。	班で一枚の絵を 15 分程度で描かせる。その際言葉は、一切使わない約束にする。時間内に必ず全員に回るように、できれば一人 2～3 回順番が回るように指示しておく。時間がきたら、班ごとに絵について話し合う。	協力できた 相手の気持ちがわかった 気持ちを伝えた 楽しかった 
	【考察】 二回実施したエクササイズであるが「楽しかった」と答えた児童は 94%いた。しかし、言葉を使わずに「相手の気持ちがわかった」のは 60%と低く、少し難しかったようである。思いを伝え合う大切さや難しさを感じていたようである。気持ちを伝え合うために、絵を描く前の班での相談の時の教師の支援は大切であることがわかった。「協力できたか」の項目では、「ご指名です」のエクササイズでは 73%であったが、今回は 88%となりエクササイズを重ねることにより班で協力して取り組もうとしている姿勢が出てきていることがわかった。		

わたしはともだちのことが
あんまりわからなかつたのであの
OXゲームのもんだいのおかげ
でいろんなことがわかりました。
とてもたのしかったです。

資料4 Oかな×かなゲームの感想

〇校時までやりたかった。
みんなまちがたんにおし
えてあげていたのでよかった。
〇けんかは一回もなかった。

資料5 ご指名ですゲームの感想

2はんが書いた絵の中に、テント
が書いてありました。
よくテントを思いついたなあ
とわたしは、思いました。

資料6 むごんチームワークゲームの感想

(2) Q-Uの結果から

図2、図3は構成的グループエンカウンターを実施前の4月25日と実施後のQ-Uの7月2日の結果をまとめたものである。実施前は、学級の実態として非承認群に属する児童が多いことがわかった。非承認群に属する児童の多い集団では、児童間のトラブルは少ないものの、児童が自分の気持ちを表現できなかったり、学級全体で協力して一つのことをやり遂げようとする意欲が弱かったりする傾向がみられることがある。

そこで、エンカウンターを実施するときには、楽しい雰囲気の中で友だち関係を深められるようなエクササイズを取り入れていった。エンカウンター実施後は、学級生活満足度尺度(図2)の結果は学

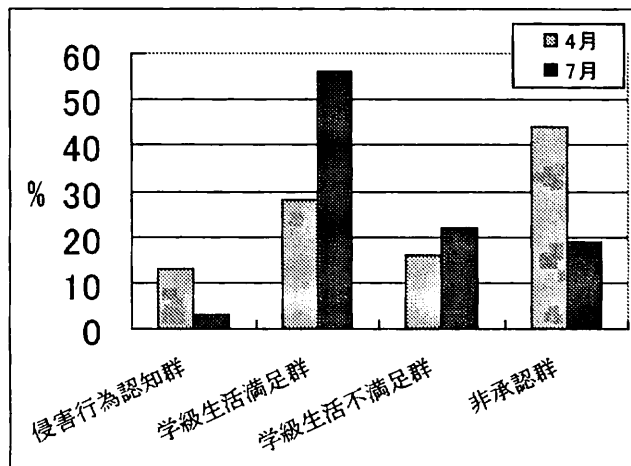


図2 学級満足度尺度

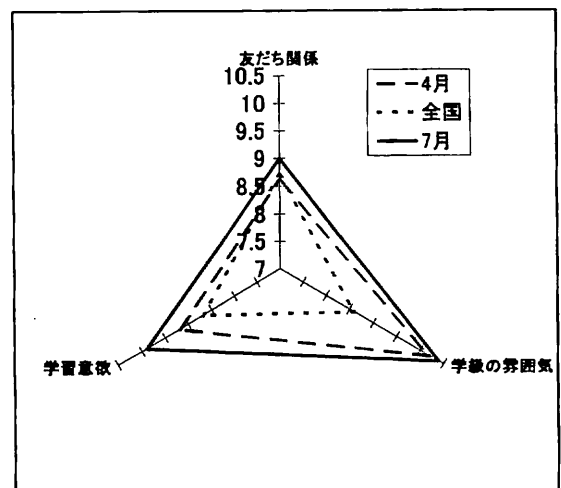


図3 学校生活への意欲

級生活満足群の児童が 28%から 56%に増えた。また非承認群に属していた児童が 44%から 19%に減少している。学校生活意欲プロフィール(図 3)では 4 月は友だち関係の項目が全国平均よりも低かったが、7 月には全国平均を上回り、友だち関係・学級の雰囲気・学習意欲とも 4 月よりも高まった。このことからエンカウンターを実践することでお互いに受容しあい、学級生活に満足している児童が増えてきていることがわかる。

2 班活動を中心にした学級行事「お誕生会」への取り組み

お誕生会を終えての児童の振り返りを図 4 にまとめた。「班の人ともっと活動したいか」「協力してできたか」の 2 つの項目では、85%の児童が「はい」と答えている。

このことから、班を中心にして学級行事「お誕生会」に取り組んできたが、指導の工夫をすることによって活動の意欲が高まり協力し合って班活動ができるようになってきていることがわかる。

また 70%の児童が「よさをみつけることができた」と答えており、活動を通してよさを認め合う雰囲気ができてきたことがわかる。

その結果、資料 7 のように自分の学級のことを「すきだ」と答えている児童が 85%いる。

しかし残り 15%の児童は学級に満足していないのでそれらの児童への支援の仕方の工夫が今後の課題である。

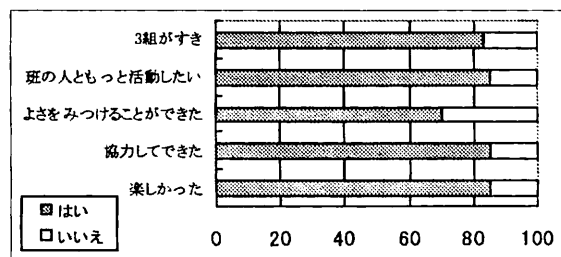


図 4 お誕生会の振り返り

2. 自分のはんの係のしごとがきょうりょくしてできましたか。
☒ はい ☐ いいえ ☐ あまりできなかった ☐ できなかった
 わけ みんなできょうりょくして、つくったいろいろなメダルができました。
 4. 自分のはんのよさを 見つけることができましたか。
☒ はい ☐ いいえ ☐ あまりできなかった ☐ できなかった
 かずとさんか、おたんじょう日の人のために、いろいろなメダルも作ってくれた。
 日、あなたは、3年3組が すきですか。
☒ とても好き ☐ すき ☐ あまり好きでない ☐ 嫌い
 どんなところ
 みんなできょうりょくして、いろいろなことがひきまから

資料 7 児童の振り返りカード

VI 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) Q-U の学級生活満足群の児童が増えたことから児童の相互理解が深まったことがわかる。このことから、人間関係作りに構成的グループエンカウンターは、有効であることがわかった。
- (2) 班を中心にした学級行事へ取り組むことで、お互いのよさを認め合う場がふえ児童相互の理解が深まり、班で協力し合う雰囲気ができ、活動の意欲が高まり学級がまとまってきた。
- (3) よさを認め合う活動を意図的に設定することにより、互いに受容し合い、自分の考えを話せる雰囲気ができてきた。
- (4) 学級経営や児童理解の方法について理論研究したことにより、これまでの自分の実践や学級での人間関係づくりを見直す機会をもつことができた。

2 今後の課題

- (1) 学級に満足していない児童への支援の工夫
- (2) 友だちとうまくかかわれない児童の内面理解に努め、生き生きと集団の中でかかわれるような支援の工夫
- (3) 構成的グループエンカウンターをとりいれた年間指導計画の作成
- (4) 年間を通した班活動及び学級行事の指導計画の作成・実践・見直し

〈主な参考文献〉

坂本光男著	『子ども同士の関係性をどうつくるか』	明治図書	2001 年
国分康孝監修	『エンカウンターで学級が変わる小学校編』	図書文化社	2002 年
下村哲夫・天笠 茂他	『学級経営の基礎・基本』	ぎょうせい	1994 年